様式第５号

令和６年度　学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	3	学 校 名	静岡県立浜松視覚特別支援学校	記 載 者	大橋　早苗

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評　価	意見
楽しく学び思考力を高める授業づくり	**ア　成長を支える視覚教育の充実と基礎学力問題解決力を身に着ける授業実践**	・幼児児童生徒の基礎学力の定着を図ることができたと評価する職員 90%以上	A	A	・目標を明確にして取り組めたことが成果につながったと思う。
		・教材共有への貢献又は活用ができたと評価する職員 80%以上	B	A	・教材共有データベースを立ち上げ今後の運用に向けた準備が着実に進められている点が高く評価できる。
		・視能訓練士や歩行訓練士の指導助言を授業実践等に生かし学習効果が高まったと評価する職員 90%以上	A	A	・専門家による支援はとても貴重。保護者とも情報共有していけるとさらによい。
		・幼児児童生徒の教育的ニーズに応じた教育課程を編成し、よりよい学びにつながったと評価する職員 90%	A	A	・小学部の子供の達成に対して評価をし、それを廊下掲示板を使って表に向かって発信する教育場面や高等部のカフェの実践、フロアーバレーへの指導など児童生徒の自己効力感と次につながる好奇心の育成に寄与する教育を実践されていると感じる。
		・個別の指導計画を有効に活用できたと評価する職員 80%以上	A	A	・障害は、一人ひとり違うため個々に対応してもらえることはとてもよい。
		・幼児児童生徒が楽しく学び、主体的に課題を解決する態度が育ったと評価する職員 80%	A	A	・幼児児童生徒が、主体的に取り組めることが大事。
		・災害時に命を守る力を育成する授業実践の積み重ねにより、効果的な育成イメージが見えてきたとする教員 70%	A	A	・体験的な活動を行い、災害のイメージを持たせることは大事だと思う。
	イ　効果的学びに導く教育 DX の推進及び ICT 機器・情報等活用力を育てる授業づくり	・担当する児童生徒の ICT 機器等への興味関心や活用力が昨年度より向上したと評価する職員 80%	A	A	・当該領域で確立された視覚補助具に加え、日進月歩の情報技術も取り入れ、多様な選択肢を子どもたちに提供しようとする姿勢が高く評価できる。
	ウ　社会課題を意識し経験・視野を広げる SDGs 教育及びキャリア発達に必要な力を培う指導の充実	・担当する児童生徒の視野が広がり、ＳＤＧｓや世界情勢等への関心が広がったと評価する職員 70%	A	A	・日本や世界情勢について児童生徒の視野を広めることが大事。
		・キャリアパスポートを有効活用し、児童生徒の自己理解が深まり社会参加への意欲が高	A	A	・学校での取り組みが家庭での新たな挑戦につながるとよい。

様式第５号

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評　価	意見
		まったと評価する職員 70%			
安全で豊かな学校生活	エ　健康・栄養に関する知識と理解を深める体力向上につながる体育的活動の充実	・自身の健康を意識し生活習慣の改善が図れた児童生徒10人以上	A	A	・生活習慣と心の健康を意識付けていくことが大事。
		・「心の健康」を意識し生活習慣の改善が図れた児童生徒 10 人以上	A	A	・誰でも相談できる環境作りが大事。
		・食や食材に関する理解を深まった幼児児童生徒 10 人以上	A	A	・健康につなげるための学習は大事。
		・スポーツへの関心・運動意欲が高まったとする児童生徒 10 人以上	A	A	・スポーツを通しての交流は意欲が高まりとてもよい。今後、生涯スポーツにつながっていくとよい。
	オ　緊急対応力と支援活用力向上に向けての避難訓練の充実及び防災体制の見直し	・非常時に防災計画書を活用して行動できると考えている職員 100%	A	A	・防災について全体の意識が高いことはとてもよい。
		・環境備品等の整備不良による事故０	A	A	・今後も継続してほしい。
		・様々な非常時を想定し見通しの持てた児童生徒 15 人以上	A	A	・全国的にも関心が高まる防災教育を研修テーマに位置付け、様々な工夫をこらして目標を達成された点が高く評価できる。
		・緊急時対応訓練や研修、または、緊急時対応マニュアルの効果があったと評価する職員 90%以上	A	A	・訓練を生かして、緊急時に自分で判断できるようになってきているのはよい。
		・被災時対応計画及び学校再開計画の策定			・地域との連携は必要。
	カ　仲間と協働し達成感を共有する経験及び自己肯定感を高める活動の充実	・人権意識が高まり、相手の人権を尊重したかかわりができたと評価する幼児児童生徒及び職員 80%以上	A	A	・児童生徒に加えて、管理職のリーダーシップのもと、「さわやかタイム」や「あおいタイム」など、教員間のコミュニケーションがより一層円滑に進むための働きかけが行われ、効果をあげていた点が高く評価できる。
		・諸活動において自己肯定感を高める工夫ができたと評価する職員 80%以上	A	A	・自己肯定感を高める意識を持てることがよい。
		・学校生活全体を通して、自己肯定感を維持できたと答える児童生徒 70%以上	A	A	・今後も継続してほしい。
成長を支える支	**キ　視覚障害教育センターとしての相談支援機能の強化及び相談担当者の育成**	・外部専門家との有効な連携ができたと評価する職員 100%	A	A	・職員自ら情報を得るために外部と関わる機会を設けられるとよい。
		・相談者及び外部関係者の満足度 90%以上	A	A	・担当者に時間的な自由度があるとよい。
		・新規相談件数増加 10 件以上	A	A	・担当者の使命感の強さを感じた。

様式第５号

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評　価	意見
援体制	ク　交流及び共同学習の充実と幼児児童生徒が地域で豊かに生活するための基盤づくり	・交流及び共同学習が有意義であったと評価する児童生徒、職員 80%以上 ・地域に関心を持って外出参加する機会が増えたと答える児童生徒 60%以上	A C	A A	・Web 会議システムなど、多様な交流及び共同学習の在り方を模索されている点が高く評価できる。 ・地域の理解も重要と考えられるが、継続的な情報発信やカフェ活動などにより、一定数の児童生徒から外出機会が増えたと回答のあった点は高く評価できる。
	ケ　保護者、地域、関係機関に対する教育活動の効果的な発信及と連携強化	・学校公開の内容が効果的だったと評価する参加者 100% ・効果的発信方法の確立	A A	A A	・学校公開は、継続して行ってほしい。 ・Apple Podcast などの幅広いメディアを通じて広報活動に積極的に取り組んでいる点が高く評価できる。